

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-158	高等学校	地理歴史科	日本史A	1～3 学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教 科 書 名		
81 山川	日A311	日本史A 改訂版		

1. 編修の趣旨及び留意点		
<p>(1) 日本の近代・現代の歴史的展開を諸資料にもとづいて客観的に叙述した。また、地理的条件や世界の歴史と関連付けた叙述にも心がけた。現代の諸課題に着目して考察させることを通じて、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養うことができるよう留意した。</p> <p>(2) 標準単位数 2 単位で履修されることを前提として編修し、できる限りわかりやすく詳細に叙述した。その際、政治・経済・社会・文化などの諸事象は、相互の関連を重視した叙述を心がけ、単なる事項の羅列にならないよう十分に注意した。</p> <p>(3) 「私たちの時代と歴史」「近代の追究」「現代からの探究」では、それぞれ近代・現代の歴史にかかわる社会的事象と関連させた主題を設定し、考察の手段・方法を具体的に例示した。</p> <p>(4) 高等学校における日本史教育の重要性を考慮し、とくに公正な立場から正確に叙述するとともに、必要に応じて歴史学の新しい研究成果を織り込んで包括的に叙述した。</p>		
2. 編修の基本方針		
<p>(1) 平成 21 年 3 月改訂の高等学校学習指導要領「日本史A」の目標、内容、内容の取り扱いの趣旨に従ったが、高等学校における日本史学習上の問題点や教育現場における指導例などを考慮して、一部独自の構成を加えて作成した。</p> <p>(2) 高等学校学習指導要領「日本史A」の内容である「近代の日本と世界」「現代の日本と世界」の趣旨に従って、章立てをおこなった。</p>		
3. 対照表		
図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
私たちの時代と歴史 日本の近代・現代を振り返る	* 「私たちの時代と歴史」では、主体的な学習を促すため、「日比谷公園」を題材に、具体的な資料に基づいて歴史を考察するための手段や方法をわかりやすく例示した(第 2 号)。	5～9 ページ

<p>序章 近世社会の動揺と近代への胎動</p> <p>1 幕藩体制の動揺と政治改革</p> <p>2 新しい経済構造と学問の芽生え</p> <p>3 日本をとりまく世界の変容</p> <p>第1章 開国と明治維新</p> <p>1 アジアの激動と日本の開国</p> <p>2 江戸幕府の滅亡</p> <p>3 明治維新</p> <p>4 富国強兵</p> <p>5 明治初期の外交</p> <p>6 殖産興業と文明開化</p> <p>第2章 立憲国家の成立</p> <p>1 自由民権運動</p> <p>2 立憲制の成立</p> <p>3 立憲政治の展開</p> <p>4 日清・日露戦争</p> <p>5 産業革命と社会の変容</p> <p>6 明治の文化</p> <p>第3章 第一次世界大戦と日本</p> <p>1 政党政治の展開</p> <p>2 ワシントン体制</p> <p>3 経済・社会の変容</p> <p>4 市民文化</p> <p>第4章 昭和の恐慌と満州事変</p> <p>1 恐慌の時代</p> <p>2 政党内閣期の内政と外交</p> <p>3 軍部の台頭</p> <p>第5章 第二次世界大戦と日本</p> <p>1 日中戦争</p> <p>2 重化学工業化と統制経済</p> <p>3 第二次世界大戦と太平洋戦争</p>	<p>*本文叙述にあたっては、地域や分野のバランスを考慮しつつ、公正な立場から客観的に詳述した(第1号)。</p> <p>*近代・現代の歴史が、さまざまな地域や人びととの交流の中で、その影響を受けつつ展開してきたことを、コラムなどで多方面からバランスよく叙述した(第3号)。</p> <p>*「北海道の開発」「田中正造と足尾鉍毒事件」といったコラムを設けるなど、歴史への興味・関心が高まるよう配慮するとともに、生命の尊さや環境保全の重要性にも配慮した叙述を心がけた(第4号)。</p> <p>*文化史は、時代背景と関連付けて叙述するとともに、代表的な文化財は図版としても積極的に取り上げた。また、国内の動向のみならず、日本と諸外国との関係にも適宜触れながら叙述した(第5号)。</p>	<p>10～170 ページ</p> <p>17, 30, 37 44, 72, 80, 82, 89, 115, 132 ページ</p> <p>51, 99, 128, 147, 168 ページ</p> <p>13, 52～55, 100 ～109, 128～ 136, 158～159 ページ</p>
<p>近代の追究</p> <p>国際情勢と国民</p>	<p>*「近代の追究」では、主体的な学習を促すため、「移民問題と近代日本の外交」を取り上げ、具体的な資料に基づいて近代史を考察し、追究するための手段や方法をわかりやすく例示した(第2号)。</p>	<p>171～173 ページ</p>
<p>第6章 占領下の日本</p> <p>1 占領と改革</p> <p>2 冷戦の開始と講和</p> <p>第7章 経済繁栄と保守長期政権</p> <p>1 55年体制</p>	<p>*本文叙述にあたっては、地域や分野のバランスを考慮しつつ、公正な立場から客観的に詳述した(第1号)。</p> <p>*近代・現代の歴史が、さまざまな地域や人</p>	<p>174～227 ページ</p> <p>177, 202 ペー</p>

<p>2 高度経済成長期の経済と社会</p> <p>第8章 現代の世界と日本</p> <p>1 冷戦の終結と日本</p> <p>2 日本社会の変容</p>	<p>びととの交流の中で、その影響を受けつつ展開してきたことを、コラムなどで多方面からバランスよく叙述した(第3号)。</p> <p>* 「復員と引揚げ」のコラムや、「高度経済成長のひずみ」の記述では、歴史への興味・関心が高まるよう配慮するとともに、生命の尊さや環境保全の重要性にも配慮した叙述を心がけた(第4号)。</p> <p>* 文化史は、時代背景と関連付けて叙述するとともに、代表的な文化財は図版としても積極的に取り上げた。また、国内の動向のみならず、日本と諸外国との関係にも適宜触れながら叙述した(第5号)。</p>	<p>ジ</p> <p>182, 208～209 ページ</p> <p>192～193, 210 ～211</p>
<p>現代からの探究</p> <p>日本の農業の現状</p>	<p>* 「現代からの探究」では、主体的な学習を促すため、「現代日本の農業問題」を取り上げ、具体的な資料に基づいて歴史的に考察し、探究するための手段や方法をわかりやすく例示した(第2号)。</p>	<p>228～231 ページ</p>

#### 4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- (1) わかり易さ、学習上の便宜を考慮して、ふりがなや参照頁などを適宜挿入した。
- (2) 近代・現代の学習の導入として、おもに近世後半の動向をまとめた序章を設けた。
- (3) 国内の動向のみならず、周辺の国々をはじめとする日本と諸外国との関係に留意しながら叙述し、随所に地図を掲載した。
- (4) 図版はできる限り大きく掲載した。また、地図・グラフ類は専門家による校閲のもと、カラーユニバーサルデザインにも配慮し、読み取りやすい表現方法での作図を心掛けた。
- (5) 教育現場の教科書に関する要望・意見などを十分に検討し、可能な限りそれらを叙述に生かすよう努めた。

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-158	高等学校	地理歴史科	日本史A	1～3 学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教 科 書 名		
81 山川	日 A311	日本史A 改訂版		

1. 編修上特に意を用いた点や特色
<p>*内容の全体にわたって、国際環境や地理的条件などと関連付けて叙述するとともに、地図や年表などの諸資料も適宜掲載した。また、図版の作成にあたっては、見やすさ・わかりやすさにも配慮した。</p> <p>*日本の近代・現代の歴史的過程や特色が総合的に理解できるよう、政治・経済・社会・文化など各領域のバランスに配慮しつつ、適宜相互に関連づけながら叙述した。</p> <p>*「私たちの時代と歴史」「近代の追究」「現代からの探究」では、日本の近代・現代にかかわる社会的な事象から主題を設定し、諸資料を活用して主体的に考察する方法を具体的に例示した。</p>

2. 対照表			
図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
日本の近代・現代を振り返る	(1) 私たちの時代と歴史	5～9 ページ	3
序章 近世社会の動揺と近代への胎動 1 幕藩体制の動揺と政治改革 2 新しい経済構造と学問の芽生え 3 日本をとりまく世界の変容	(2) 近代の日本と世界 ア 近代国家の形成と国際関係の推移 イ 近代産業の発展と両大戦をめぐる国際情勢	10～173 ページ	6
第1章 開国と明治維新 1 アジアの激動と日本の開国 2 江戸幕府の滅亡 3 明治維新 4 富国強兵 5 明治初期の外交 6 殖産興業と文明開化			12
第2章 立憲国家の成立 1 自由民権運動 2 立憲制の成立 3 立憲政治の展開			12

